



**Q** 私の父は36歳の若さで、妹は45歳でも脳動脈瘤<sup>りゅうどうみゃくじゆ</sup>で亡くなりました。二人とも同じ病気で亡くなったことから、私は脳のMRIを撮りました。異常は無かったのですが、動脈瘤は遺伝が多いと聞きとても心配です。これからどんなことに気をつければいいのでしょうか。  
(前橋市・49歳・女性)

**A** 年に一度、  
脳血管の検査を



脳動脈瘤はおよそ100人中5人(5%)くらいの方がもっていると考えられています。脳動脈瘤があることによる直接的な体への影響はあまりないのですが、これが破裂するとクモ膜下出血となり、命にかかわる状態になります。およそ年間0.5~1%の確立で破裂すると言われています。脳動脈瘤の治療は開頭手術や部位によっては血管内からの手術になります。破裂する前に治療した方がいいのですが、治療には合併症の可能性もありますので、年齢や動脈瘤の形、大きさなどを総合的に考えて方針を決めます。脳動脈瘤は遺伝病のようなはっきりとした遺伝性はないのですが、家族内に多発している場合には注意が必要です。多嚢胞腎<sup>たうほうじん</sup>やマルファン症候群など特殊な遺伝性疾患で脳動脈瘤が多いことも知られています。

MRI検査で異常はないとのことなので、当面は心配ないと思いますが今後、新しく脳動脈瘤ができてくる可能性はあります。年に一度くらいMRA(MRIによる脳の血管の検査)か3D-CTA(CTによる脳の血管の検査)を行い、脳動脈瘤ができていないかチェックするといいでしょう。また、脳動脈瘤は高血圧や動脈硬化により発生するとも考えられています。高血圧、高脂血症、糖尿病などがある場合には治療をしておき、肥満は解消し、適度な運動と喫煙者は禁煙することが重要です。

(脳神経外科 / 齊藤延人医師)

**Q** かかりつけの病院で定期健診を受けました。血液検査の結果、リウマチを表す数値が「+1」でした。今は自覚症状がなく、また「+」だからといってすぐに発病することはないと医師から説明されました。生活していく上での注意点を教えてください。(前橋市・75歳・女性)



**A** 陽性だけでは特別な注意は不要

リウマチを表す数値とはリウマトイド因子のことでしょう。関節リウマチという病気の80%くらいが陽性となることから、このような名前と呼ばれています。従って、まずはリウマチ症状である関節の痛み、腫れ、こばりなどがどうか注意する必要があります。

しかし、リウマトイド因子は関節リウマチ以外の膠原病<sup>こうげん</sup>、慢性の肝臓病や感染症などでも陽性となり、さらに重要なことは健康な方(特に高齢者)の10%くらいにも検出されます。しかも、リウマトイド因子陽性の方が将来、リウマチを発症する危険性が高いかどうかは明らかではありません。従って、リウマトイド因子は病気の発見や予防に役立たない検査であり、検診の検査項目に加えるのは不適切だとの考えもあります。

以上のことから、関節の症状、発熱などの感染症状、肝臓の病気などが否定されていれば、リウマトイド因子が陽性ということだけで日常生活に特別の注意をする必要はありません。

(生体統御内科 / 野島美久医師)



群馬大学大学院病態制御内科(第一内科)肝臓研究グループが出版しました

**肝臓病なんて怖くない**

A5判 並製本 184ページ  
定価1300円(税込み)

群馬県内で肝臓病の診療に携わる専門医24人が分担し、執筆した本。肝臓の構造や働き、B型・C型肝炎、肝硬変、肝臓がんとその治療法などを分かりやすく解説。医療現場で受ける質問をもとに肝臓病Q&Aコーナーを設け、親しみやすい内容に。肝臓病に悩む人にとって待望の一冊。

問い合わせは、上毛新聞社出版局(1027・254・9966)へ。